

令和元年度
自己点検・自己評価報告書

岩手医科大学医療専門学校
歯科衛生学科

1、教育理念・目標

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
学校における職業教育の特色は何か	④ 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④ 3 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

(1) 課題

本学科では、学校の教育理念・目標・めざす学生像を学生要覧に明記し、全学科生に配布している。また入学式後に行われる説明会や各学年の保護者懇談会でも教育理念や将来構想について説明し、広く周知するよう努めている。歯科衛生士の業務範囲が広がりを見せる中、業界が求めるニーズを大学病院や歯科医師会との連携の中で模索しているが、昨年同様他、歯科医師会以外の団体との協議の場はなく今後の検討事項である。

(2) 今後の改善方策

学生の就職先として考えられる地方公共団体や高齢者施設、企業などからもニーズを聴取できる環境づくりを引き続き模索していく。

2、学校運営

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意志決定機能は効率的か	④ 3 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1

教務・財務等の組織整備などコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	②	1

(1) 課題

事業計画は法人理事会が決定しており、その内容は入学生の確保と国家試験合格率の高位維持である。その事業計画を達成するためオープンキャンパス、高校訪問、進学相談会等を計画し実施している。また国家試験の合格率の高位維持のため、全国模擬試験の実施や個々の学生との面談、個別指導などきめ細やかな対応を行っている。組織・制度に関しては法人として整備されており、問題がないと思われる。

教育活動に関する情報公開はホームページを通して行う体制が整備されている。情報システム化による業務の効率化は出欠席や成績の管理等で少しずつ改善されてきているが、十分とは言えない。今後更なるシステムの改善が必要である。

(2) 今後の改善方策

出欠席の管理において、より効率的な情報のシステム化を目指す。

3、教育活動

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1			
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方法等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	③	2	1
関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	③	2	1

関連分野における実践的な職業教育（産学連携におけるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	②	1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことのできる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	①
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

（1）課題

カリキュラムに関しては教育理念、教育目標に沿って毎年度教育要項（シラバス）を作成し、その中で到達目標、学習時間が明確に示されている。また、平成30年度にカリキュラムの大幅な見直しを行い、令和元年度は円滑にカリキュラムの移行がなされ本校の特徴である大学病院での実習がより充実したものとなった。

また授業評価については継続的に取り組み、専任教員担当講義に関しては学生、教員それぞれが評価を行い次年度へ向けての改善方策の検討も行っている。

教員の確保に関しては欠員が出た場合、人材の確保には苦慮しているがハローワークにおいて幅広く教員を募集し、知識や教育力、人間性を兼ね備えた人材を採用するよう努めている。教員の資質向上のための研修としては専任教員認定講習会の受講や日本歯科衛生学会、日本歯科衛生教育学会への参加を促し一部費用の負担もしている。また平成29年度より本学附属病院歯科医療センターでの実地研修が始まり、先進的な技術を習得するため各々が研鑽している。

（2）今後の改善方策

非常勤講師への授業評価導入については、関係者の意見を聴取しながら、今後も検討していく。専任教員の資質向上のためには今後も引き続き研修会、学会への参加を促し、

専門的知識、技術の向上を図る。また、今後は教育力向上を目指した研修等も行う必要がある。

4、学修成果

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4 3 ② 1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4 3 ② 1

(1) 課題

就職に関しては2年次の後期より説明会を開催し、アンケート等により学生の目指す方向性を確認しながらサポートする体制が整っている。本校への求人数は学生数の20倍以上になっており就職希望者に関しては100%の就職率を維持している。

国家資格取得に関しても過去1名の不合格者を除き、全国的に合格率が低下した年も100%の合格率を維持している。資格取得のサポートとして行う3年次の成績不良者への個別補習講義は、基準点を定め、それをクリアするまで担当教員のもとで学ぶシステムが整っている。

資格を取得し就職後、半年以内の離職については令和元年度よりアンケートを実施しているが、回答率が低く状況が正確に把握できているとは言えない。今後は同窓会の活用も含め卒業生のキャリア形成を通して教育の評価を行っていく必要がある。

(2) 今後の改善方策

同窓会の整備は少しずつ進んでいるが、現在体制が整ったところで未だ卒業生の動向を把握するに至っていない。卒業生のキャリア形成を把握することが教育内容の改善にも繋がるよう就職先の状況調査なども含め今後取り組んでいく。

5、学生支援

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
課外活動に対する支援体制はあるか	4 ③ 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4 ③ 2 1
関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等を行っているか	4 ③ 2 1

(1) 課題

就職に関しては学生要覧にも明記されている「就職斡旋規程」に基づき、在学生、卒業生がその適性、能力にふさわしい職場を選択できるよう支援している。

学生相談、健康管理は大学内に設置されている健康管理センターがその業務を担っており、年1回の健康診断他予防接種、専任の臨床心理士がメンタルサポートを行っている。

学生に対する経済的支援としては、学業人物ともに優秀で、修学に熱意のある者を特待生として表彰し学費の一部を免除している。また、令和2年4月から始まる「高等教育の修学支援新制度」では対象校に指定されており、経済的な理由で学生の学びが中断されることのないよう、学校としても制度の周知に努めている。

学生の生活環境に関しては現在積極的なサポート体制はなく、周辺のアパート等賃貸情

報の提供を行っている程度である。

保護者との連携としては年に1回の父母会総会において意見交換がなされている。さらに2・3年次の模擬患者実習時に学年別の父母会を開催し、学校側からの現況報告と希望者のみではあるが面談も行っている。また保護者が学生の出欠状況を把握できるよう毎月出席状況を通知している。その他にも成績不良等の問題がある学生の保護者とは緊密に連絡をとり面談を重ねている。社会人入学生に対しては、令和元年度から専門実践教育訓練給付制度の対象講座の指定を受け、社会人入学生の増加につながっている。高校との連携によるキャリア教育の取り組みとして高校に出向き出張講義など依頼があれば応えている。しかし件数としては少なく、活動を広げていく必要がある。

卒後の再教育プログラムとしては歯科医師会で取り組む復職支援研修会に協力し、令和元年度は卒業生が受講し、その後復職している。将来的には同窓会等で最新の知識・技術を学べる本校独自の再教育システムを導入していきたい。

6、教育環境

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
防災に対する体制は整備されているか	④ 3 2 1

(1) 課題

専修学校設置基準および指定規則等に基づき教育上必要な施設、設備が配置されている。本校は学内だけでなく、岩手医科大学のキャンパスを使用した基礎医学実習なども行われている。

防災に関しては地元消防署、本学施設課・総務課の協力のもと年に1回の防災訓練が行われている。また学外実習施設での実習中に災害が発生した場合のマニュアルを作成し、実習施設指導者と対応を共有している。

(2) 今後の改善方策

防災に関しては毎年度見直しを重ね非常事態に対応できるよう関係各所と連携を取っていく。

7、学生の受け入れ募集

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取り組みを行っているか	④ 3 2 1
学生募集活動は適正に行われているか	④ 3 2 1
学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
学生納付金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

(1) 課題

高校訪問などを通して職業（歯科衛生士）の認知を広めるよう努めている。本校の情報だけではなく全国的な需要、供給の現状や国家試験の合格率等、正確な情報の提供を行っている。しかし職業の認知度は高いとは言えず、今後の対策が必要である。

学生募集に関しては、ウェブサイト上に学校での講義、実習の様子を記事として定期配信し、志願者に入学後の学生生活を理解してもらうよう努めている。学生納付金に関しては、法人理事会の承認を経て教育環境、内容にあわせた金額が決められている。

(2) 今後の改善方法

職業認知度の向上のために高校からの依頼による出張講義等には積極的に参加する。またどの担当者が出向いても正確かつ一貫性のある情報が提供できるよう、学内での学生募集に関する研修を行う必要がある。

8、財務

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

(1) 課題

学校法人によって適切に管理されている。

(2) 今後の改善方策

今後も広く社会に説明責任を果たすべく適正な管理に努める。

9、法令等の遵守

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための方策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

(1) 課題

学校経営は法令、設置基準を遵守し適正に行われている。個人情報に関しては法人内で個人情報保護方針を定め、適正な利用・管理に努めている。特に職業紹介事業に関する個人情報保護に関しては「個人情報適正管理規程」を医療専門学校として定め、学生要覧に明記し周知している。自己評価に関しては令和元年度が5年目の取り組みであり、ホームページ上での自己評価結果の公表も行っている。令和2年度は、学校関係者評価の組織作りが課題である。

(2) 今後の改善方策

自己評価について取り組む組織作りを推進する。

10、社会貢献・地域貢献

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3 やや不適切：2、不適切：1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	②	1
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	②	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

（1）課題

学校の教育施設に関しては、岩手県からの借用であるため独断での使用はできない。歯科衛生士復職支援のために歯科医師会へ会場の提供を行った実績はあるが、状況としては地域に開かれた学校とは言い難い。

学生のボランティア活動に関しては平成 28 年度、障がい者スポーツ大会へサポートボランティアとして 3 年生全員が参加している。しかし、継続的なボランティア活動への支援はなく、今後の取り組みが必要である。

（2）今後の改善方策

学生のボランティア活動を支援できる体制について検討する。その中で地域に開かれた学校を目指していく。